

シソ科 オドリソウ属

ホトケノザ (仏の座)

Lamium amplexicaule L.

自生環境

道ばた、野原、畑地 など

原産地

日本在来

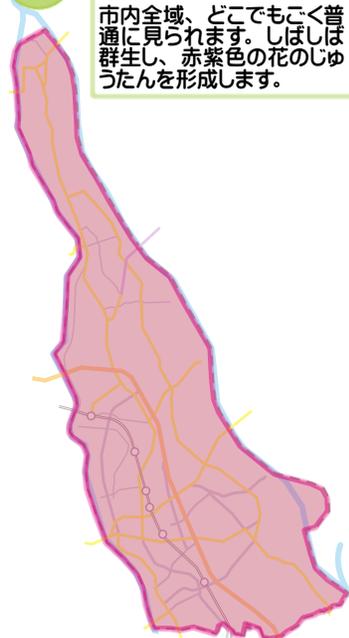
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に咲く野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域、どこでもごく普通に見られます。しばしば群生し、赤紫色の花のじゅつたんを形成します。



特徴

- ☆ いたるところにごく普通に生える 1～越年草です。秋に発芽し、成長しながら冬を越し、翌春開花するのが典型的ですが、環境があえば季節に関係なく生育し、だらだらと開花・結実します。
- ☆ 花は唇形花と呼ばれる形態で、正面から見ると、上唇、下唇に相当する部分があります。下唇の部分には濃い赤紫色の斑紋があり、これで昆虫に美味しい蜜があるよとアピールしています。ただ、環境によっては、花を開かず、つぼんだ状態のまま中で自家受粉で完結させることもあります。
- ☆ タネはエライオソームと呼ばれるアリの好物がついています。アリは、この部分を食べるためにタネごと運びますが、タネ本体は食べずにそのまま捨ててしまいます。このようにしてタネをアリに運んでもらい、自分の分布を広げる作戦を取っています。

個性豊かな花の表情

ホトケノザは、赤紫色で、下唇に濃い色の斑点がある花を咲かせるのが典型的な個体です。しかし、よく観察すると、花色の濃淡や、斑紋の有無など、花の表情はとても多彩であることに気づかれます。比較的多いのは、全体的に色が濃く、斑紋のない花を咲かせるものです。ごく稀に、純白花で斑紋がないタイプのものがあり、こちらはシロバナホトケノザという名前がつけられています。



花は唇のような形 (唇形花)

下唇には斑点がある

2枚の葉が向かい合わせになってつく



環境によっては花を開かずにつぼんだまま受粉をすませることも。



タネについている白い部分が、アリの好物 (エライオソーム)



赤紫色で斑点のない株



うすいピンクで赤紫色の斑点がある株



純白色で斑点はない

品種

シロバナホトケノザ



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

